



令和6年度 教育委員会 第16回定例会 議案

1 日 時 令和6年12月3日(火) 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 報告事項

(3) 閉 会

静岡県教育委員会

第16回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
報告 事項 1	第 38 期静岡県社会教育委員会報告書（手交）	P1

(件名)

第38期 静岡県社会教育委員会の報告

(社会教育課)

(概要)

第38期静岡県社会教育委員会が教育委員会より諮問された内容に対して協議し意見をまとめた。そこで、その内容を教育委員会に報告する。

1 任期 令和4年11月1日から令和6年10月31日（2年）

2 諮問問題 「新しい時代における社会教育
－社会教育を基盤としたウェルビーイングの実現に向けて－」

3 委員

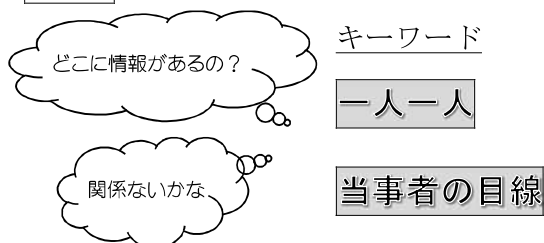
	氏名	現職
1	おかだ みきこ 岡田 美喜子	NPO 法人地域活性スクランブルフォーラム 副理事長
2	さとう まなぶ 佐藤 学	静岡新聞社編集局次長兼論説副委員長兼編集委員
3	しらき たかのぶ ◆白木 賢信	東京家政大学人文学部教授
4	すずき かずゆき 鈴木 一行	牧之原市社会教育委員長
5	たにぐち あきら 谷口 明	静岡県PTA連絡協議会 顧問
6	はまの かずひろ 濱野 和宏	菊川市教育委員会社会教育課長
7	ひびの ひでお 日比野 秀男	掛川市二の丸美術館長 兼掛川市ステンドグラス美術館長
8	まつなが ゆみこ ◇松永 由弥子	静岡産業大学スポーツ科学部教授
9	みつしし じゅんこ 三ツ石 純子	裾野市立南小学校 CS ディレクター スクールコーディネーター
10	もりや みきこ 森谷 幹子	県立駿河総合高等学校長
11	よしの かずみ 吉野 和美	富士市立青葉台小学校長
12	わたなべ まゆ 渡邊 麻由	社会福祉法人長泉町社会福祉協議会 地域福祉部門 主任主査

◇委員長、◆副委員長 役職は令和6年10月現在

誰もが共に学び合う生涯学習社会の形成に向けて

誰もが共に学び合う生涯学習社会の形成に向けて、4つの視点を大切に取組・活動をしよう。

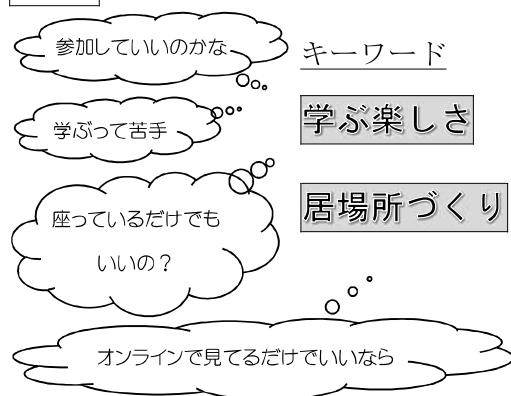
視点1 学習情報を丁寧に届ける



複数の方法で広報していますか？

店舗や施設等の掲示板やチラシの配架、自治会の回覧板、市町のSNSに掲載する広報方法に加え、やさしい日本語の使用や民生児童委員による戸別訪問等、当事者目線で一人一人に丁寧に届ける

視点2 安心感を与える



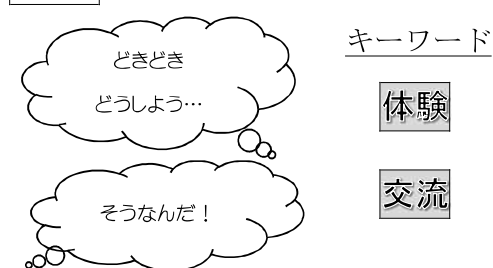
学ぶことが楽しいと思える仕掛けはありますか？

学習内容や活動がおもしろい、学んだことが生かせる、取組・活動に参画できるような、学ぶ楽しさを感じ、安心して参加できる学習プログラムを組む

ただ集まれる居場所にもなっていますか？

学び合うことに最初は戸惑う学習者も存在する。参加の仕方に自由度が認められ、気楽に安心して参加できる居場所の存在が次への学び合いに発展していく

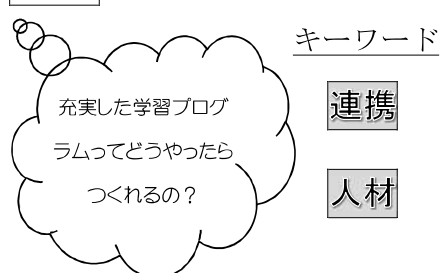
視点3 多様性を認め合う



誰もが参加できる体制を整えていますか？

様々な背景を有した人の困り感を理解することが、誰もが共に学び合う社会の形成につながる。そのために、誰もが参加しやすい体制を整えるとともに、様々な人が交流し、人それぞれの特性(多様性)を実体験から知ることができる学習プログラムを意識する

視点4 「つながり」づくり・「人」づくり



様々な強みをもつ各種団体等と連携していますか？

固定概念にとらわれることなく、学習者理解に努めようとする支援者が、得意分野の異なる必要な団体や組織(公民館・博物館・図書館、スポーツや文化関係団体、NPOや企業、PTAや地域学校協働本部など)や行政の部署及び人材と連携し、学習者のニーズに合った学習機会を充実させる

第37期報告書をもとに第38期静岡県社会教育委員会作成

第 38 期静岡県社会教育委員会（報告書概要版）

諮問題 新しい時代における社会教育～社会教育を基盤としたウェルビーイングの実現に向けて～
社会教育の果たす役割やこれからの社会教育の方向性について

<諮問題を受けて>
 予期せぬことが起こる、変化の激しい時代。
 通年、通例が良いとする考え方から脱却し、状況に向き合う最適な方法を、常に更新する必要がある。

⇩

お互いに学び合い助け合う「相互教育性」という社会教育の強みから「新しい時代」と「ウェルビーイング」をどのように捉え、社会教育活動を今後どのように展開すべきか。

社会教育の変遷（報告書第1章）

これまでの社会教育
 時代の変化とともに教育を取り巻く環境の変化に対応し、地域の基盤作りの役割を担ってきた。

これからの社会教育
 予測困難な時代となり、社会問題が多様化してきたことにより、「誰一人取りの残さない社会の実現」において、全ての人に学びを届ける役割が求められている。

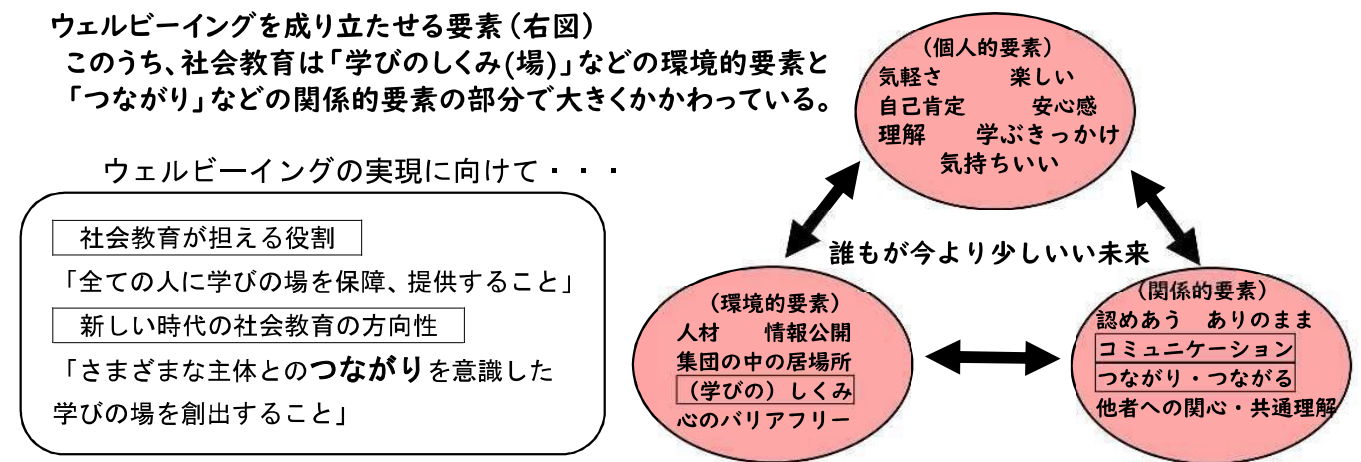
本委員会のウェルビーイングの捉え方（報告書第2章）

ウェルビーイング

- 「個人のウェルビーイング」
個人が獲得・達成する能力や状態に基づく
- 「社会のウェルビーイング」
人とのつながり・関係性に基づく

⇨

本委員会では、「社会のウェルビーイング」の実現にウエイトを置き、さまざまな学習者（主体）同士の「つながり」を大切にする。



提言 ⇨ 「つながり」を意識した活動をすることがウェルビーイングの実現には最も重要。
 新しい時代の全ての人のニーズに応じるために、現在の活動を「つながり」に着目して確認する必要がある。

「つながりチェックシート」（報告書第3章）

本委員会では、各自が行っている活動を「つながり」の視点で捉えるためのツールとして活用できればと考え、このチェックシートを作成した。
 チェックシートは、つながりの状況を可視化することができ、新たな「つながり」の必要性やつながり方を確認できる。現在の活動をj確認するきっかけとして活用していただきたい。

⇨

地縁など自然に存在する「つながり」から、意識してつながりを構築しなければならない時代を迎えた。つながる場や機会の提供に加え、専門的知識や技能を持った人材の育成が今後求められる。

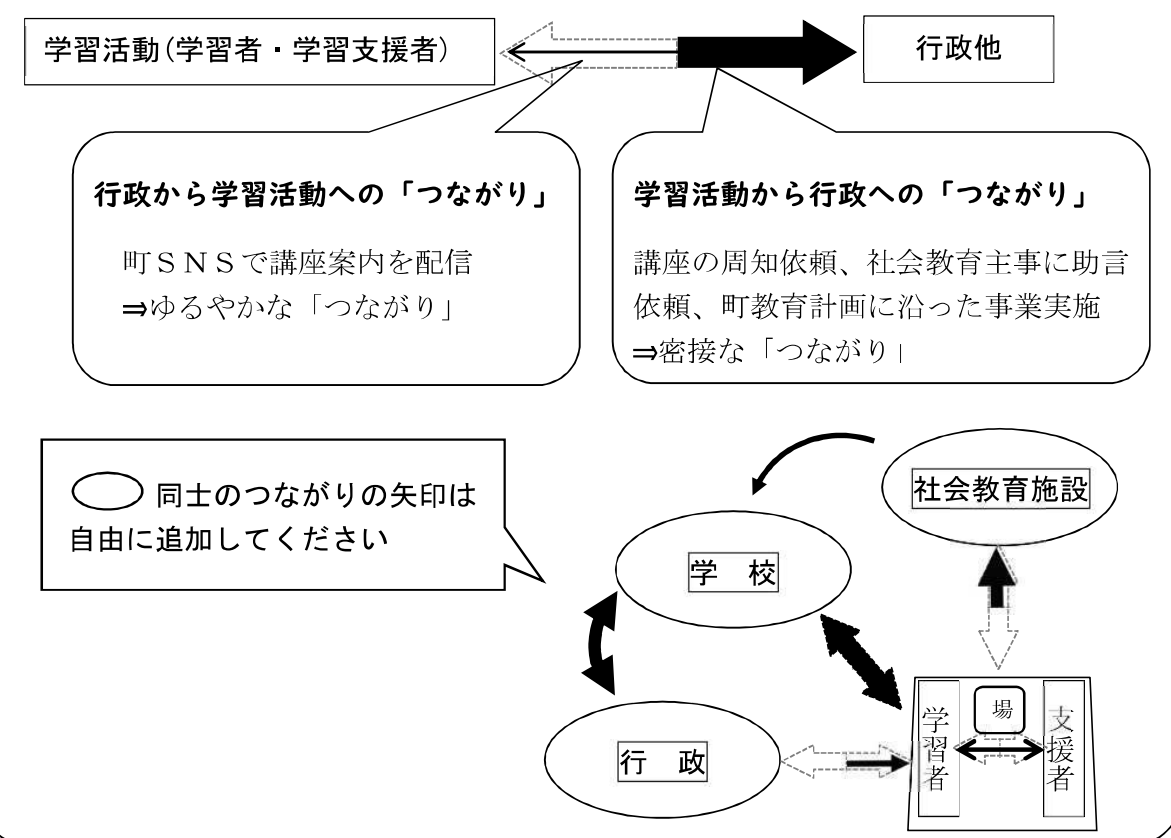
「つながりチェックシート」活用のすすめ

第 38 期静岡県社会教育委員会では、社会教育がウェルビーイング*の実現に寄与するためには、「つながり」が大切な視点(要素)であると考えました。チェックシートを活用して、今実践している社会教育の取組・活動内容を確認し、より多くの「つながり」をつくってみませんか。

チェック項目は「つながり」と「そのほかの大切にしたい視点や手段」です。
「つながり」の分析の際の矢印は、以下を参考にチェックしてみてください。

チェックの仕方 (※自己評価で構いません)

・ゆるやかな「つながり」の場合、線を引く ・密接な「つながり」の場合、塗りつぶす
<例>



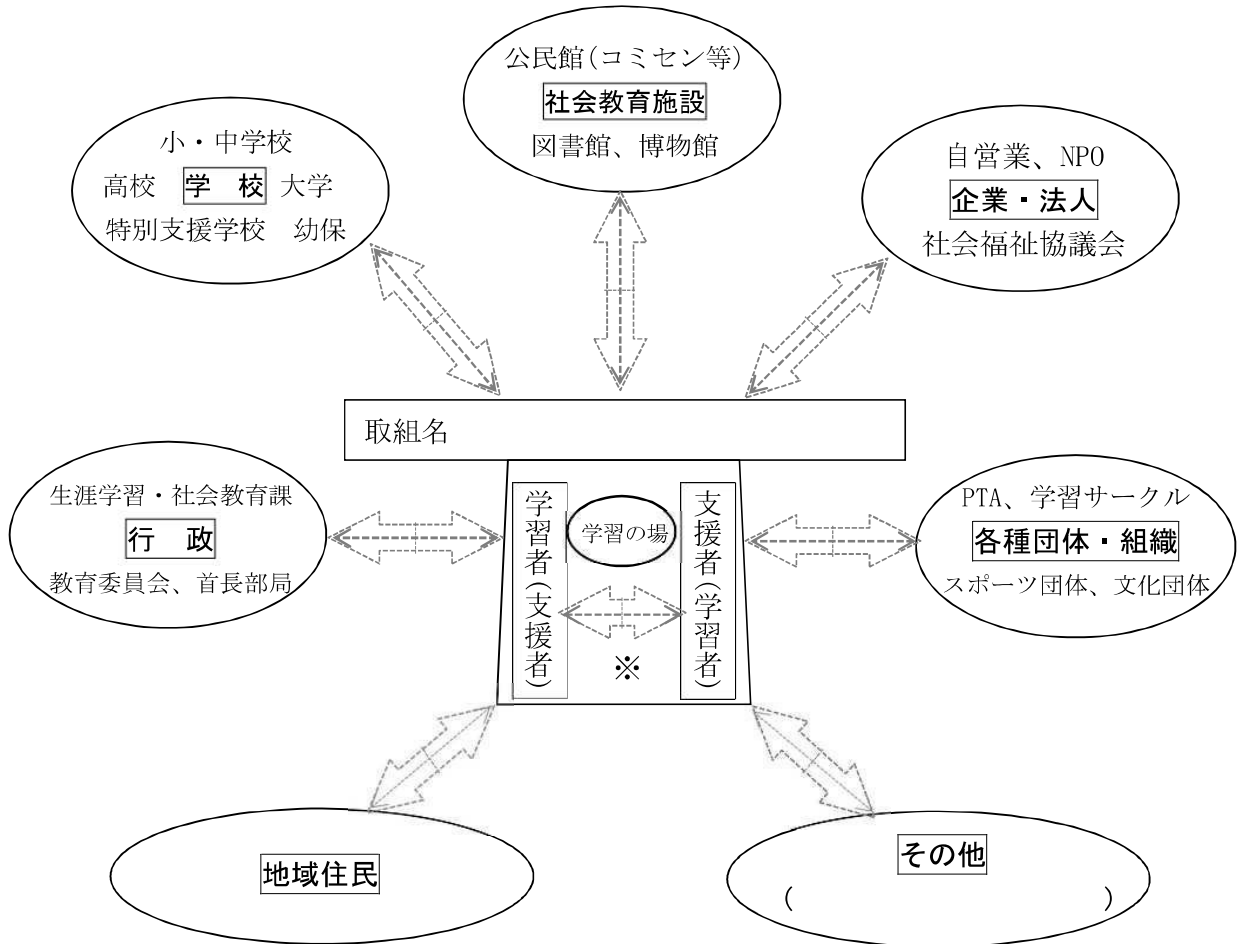
※ウェルビーイングとは、『第 11 期中教審生涯学習分科会における議論の整理』によれば、『「個人」の幸せ + 周囲の「場」のよい状態』であるとされています。

第 38 期静岡県社会教育委員会作成

「つながりチェックシート」

「つながり」の分析

◎実践している取組・活動について「つながり」を矢印で記入しましょう。



※ 様々な背景を有する学習者と自身の取組等をつなげるヒントに「(別紙)誰もが共に学び合う生涯学習社会の形成に向けて」を御活用ください。

そのほかの大切にしたい視点や手段の分析

◎以下の視点や手段を意識して取組・活動を実践している場合は□にチェックをしましょう。

- お互いを認め合う場づくり
- 居心地のいい場づくり
- 参加者に役割がある(機会がある)
- コミュニケーションの機会
- 学習成果を発信する機会
- 参加や学び方を自由に選べる

第38期静岡県社会教育委員会作成